

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「やる気 いっぱい、やさしさ いっぱい、元気 いっぱい、藤田っ子」  
 【知】自らすすんで問題にかかわり、他者とのつながりを通して、粘り強く解決することができるようにします。(自律)  
 【徳】人との関わりの中で思いやりの心を育み、自他のよさを認め、自分に自信をもつことができるようにします。(対話)  
 【体】望ましい生活習慣を身に付け、健康で安全に過ごせるようにします。(自律)  
 【公】すすんで自分たちのまちとかかわり、学校や地域をよりよくするために自ら考え、実践する力を育てます。(創造)  
 【関】多様性を尊重し、国際社会への視野を広げられるようにします。(対話)

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>

#### 具体化した資質・能力

「チャレンジする力」…先の見通しをもって、自己実現を目指す力  
 「認める力」…自分に自信をもち、自他を高めていく力  
 「伝える力」…社会とつながり、地域を愛する力

#### 中期取組目標

- ・基礎学力の向上を目指すとともに、対話的・問題解決的な学習を取り入れる。
- ・異学年交流を通して自己のよさに気づき、自分と他者を大切にすることを育てる。
- ・運動に親しみ、健康・安全の意識を高める。
- ・「人」とのつながりを意識し、豊かな体験的学習活動を通して、学校やまちを愛する心を育てる。
- ・豊かな情操を育成するための体験的な学習活動を通して多様性を尊重し、共生する力を育てる。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①子どもが主体となって学習したり、協働したりする場面を意図的に設定し、「自ら考えたい！伝えたい！深めたい！」という思いをもつことができる授業を行う。 ②ICT端末を活用し、教師は子どもの学びを見と、学習に生かす。また、協働の場面で、ICTを活用できるようにする。 ③一人ひとりが参加できる学習をめざし、学力を高められるようにする。
担当	研究研修推進委員会

#### 学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力の概要分析  
市の平均より学力が低く、学年が上がるほど、市の平均との差が大きくなっている。学習への苦手意識が固定化しているように思われる。生活意識調査における自己肯定に関わる設問について、市と比べて低い傾向にあることから、学習への苦手意識が見える。小中ブロックでは、自分づくりに関する力を高める取組を継続している。「見える化」の取組では、行事や特別活動も含め、学びを大きく捉えて、どのような力がついたかを児童と作ってきた。一方、今年度は総合的な学習の時間をはじめとして、外部講師、あるいは地域の方との学びがあった。このような学習から見られる児童の姿には、学びへの積極性が見られていた。

(2) 教科学習の状況  
国語や算数では、教科の学習意識調査でも、低い実態がある。国語科・文学的文章・説明的な文章・情報活用の三層の結果、全体的に市の平均より低い。その中でも、文学的文章と説明的文章が苦手である。「文章を読む」ということから、離れがちな生活や学習の状況がある。また、書くことについては、タブレット端末を活用して文章を作りやすいが、自分の力だけで書くとすれば、かなりの課題があるだろう。算数科、どの学年も立式して正しく計算するなど基礎的・基本的な概念や性質などの理解に課題が見られる。学年が上がると、算数科意識が下がっていく傾向があり、授業改善が必要だと思われる。  
今年度も授業形態や学習展開を工夫して、基礎基本の定着を図りたい。

#### 今年度の目標

- ①基礎的・基本的な力の定着を図る学習を進める。
- ②児童の想いを生かし、学習展開を工夫する。
- ③効果的にICT機器を活用する。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

	上半期	下半期
上半期	①児童が学習計画を立てて、個に応じた学習を進めたり、協働的な学習を進められるよう支援する。 ②児童が学習内容の理解を深めたり、学習状況を把握したりするなど、場面に応じてICT機器を活用できるようにする。 ③朝のスキルタイムを活用して、漢字計算の定着を図り、読書タイムで読書を励行する。 ④家庭学習にタブレットを活用し、学年の実態に応じて基礎的・基本的な力が定着できるように支援する。 ⑤学年研を中心にチームで教材研究を進める。教科担任制を通して、教師の授業力を高める。	①児童が学習計画を立てて、個に応じた学習を進めたり、協働的な学習を進められるよう支援する。 ②タブレットを活用して児童が自分の課題に応じて資料を調べたり、自分の考えを友達に伝えたりできるように支援する。 ③重点研究会の研究を生かして、教師の授業力向上を図る。
下半期		

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①学校教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、自他のよさに気づき、お互いを大切にすることができる学習活動を意図的につくる。 ②各教科領域と道徳科のつながりを大切に教育課程を編成する。 ③全学級の道徳科授業公開を年1回以上実施し、家庭や地域との連携を図る。
担当	道徳部、研究研修推進委員会

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童の実態  
令和7年度実施の横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査の結果を見ると、「学校生活」「自己意識」「校外生活」の三層において、高学年になるにしたがい、低くなっていく状況にある。人権国際委員会では、あいさつ運動に取り組んだ。委員会児童の声として、「あいさつをしても返ってこないことが多いということだった。また、人権週間やピンクシャツデーの取り組みしたが、全校児童の意識を高めることには課題がある。「学校や社会のよさを守ること」「いじめはいけないこと」その他、道徳的な価値を問われる設問については、ほとんどの児童が肯定的に捉えている。しかし、生活の実態を見ると、ルールを尊重できない、またはそのような状況があっても変えられない実態がある。考えと行動が一致していない。

(2) これまでの学校の取組状況  
重点研究会では道徳的価値を高める授業実践を行ってきた。授業の中では、道徳的価値を大切にしたい児童の姿が見られた。様々な教科領域の実践で、体験活動を意図的に取り入れてきた。たてわり活動など、豊かな体験活動を通して、互いに認めあい、学び合えるような集団作りをめざしてきた。

#### 今年度の目標

- ①道徳の時間をはじめ、あらゆる教育活動の中で自他を大切にすることを育てる。
- ②約束やきまりを尊重し、思いやりの心を育てる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

	上半期	下半期
上半期	①年間指導計画を作成する際に、学校行事や教科などとの関連を図る。 ②全学級年一回以上の道徳の授業を公開し、地域や保護者と協力して道徳教育の充実を図る。 ③ペア学年での交流等を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする意欲や思いやりの心を育てる。	①年間指導計画や道徳教育全体計画別業を見直し、道徳の時間のより一層の充実を図る。 ②ペア学年での交流等を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする意欲や思いやりの心を育てる。 ③道徳教育は教育活動全体で行うものという視点に立って、重点研究においても、大切にしていく。
下半期		

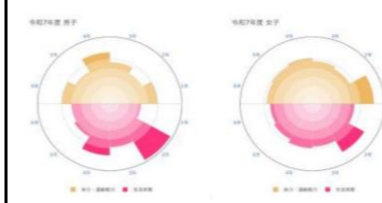
### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康診断や体力・運動能力調査の結果、横浜St☆dy Naviの健康観察をもとに、児童一人ひとりが自分の課題を把握し、健康な生活を送るために必要なことをすすんで実践しようとする姿勢を培う。 ②委員会の子どもたちが計画した長縄集会や学校保健委員会などの活動を推進し、日常的に楽しみながら体力を向上させたり、健康に対する意識を高めていく。
担当	体育部、環境・保健安全推進委員会

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態  
令和7年度の横浜市体力・運動能力調査の結果から、全体的に横浜市の平均を下回る体力・運動能力が見られた。項目別に見ると、「握力(筋力)」では横浜市の平均を上回る学年もあったが、「上体起こし(筋持久力)」や「ボール投げ(投力)」では、特に中学年を中心に、平均を下回る学年が複数見られ、基礎的な体力の向上が課題である。また、生活実態調査では、学年が下がるにつれて朝食を摂取していない子どもが多く見られる。SNSの普及により、睡眠時間が減少傾向にあることも考えられ、基本的な生活習慣の乱れが体力向上に影響を与えていると考えられる。

(2) これまでの学校の取組状況  
児童が心も体も健康に過ごせるよう、運動の楽しさや体を動かすことの大切さを感じられるような取り組みを行ってきた。体育の授業では、自分の運動能力や特徴に気づき、それぞれが目標をもって取り組めるよう、内容や進め方、場の設定を工夫している。また、委員会活動や休み時間の遊び、全校行事などを通して、学校全体で運動の機会を増やした。こうした取り組みを通して、児童は積極的に体を動かすようになり、運動に対する関心が高まってきている。



#### 今年度の目標

自分自身の健康課題を捉え、課題解決に取り組もうとする力を育成する。  
運動の楽しさを感じながら、主体的に体力を向上させようとする力を育成する。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

	上半期	下半期
上半期	【運動の楽しさや喜びを味わうための体育の授業づくり(通年)】 ・子どもが運動を好きになるように、1単位時間の運動量を確保し、スモールステップによる段階的な指導を行い、運動の特性に触れられる体育の授業を実践する。 ・児童が自分の課題を理解し、解決に向けて実践できるように、場の設定の工夫や、掲示物、ワークシートの工夫等を行う。 ・メンターチームを中心に実技研修を行い、児童の課題になりそうなポイントを把握し、児童ができるようになるための手立てを考えるなどして授業改善につなげる。 【各クラスや委員会の取り組みを推進】 ・各クラスで、横浜St☆dy Naviの健康観察から、自分の心や体の状態を知り、生活習慣を振り返る。 ・保健委員会を中心に、毎月、健康観察チェックリストを配付し、各クラスで取り組む。 ・学校保健委員会(7月)では、学校での健康課題を共有し、課題解決に向けて、各クラスで目標を立てて取り組む。	【スキルタイムや休み時間を活用した取り組みの推進】 ・運動委員会を中心に、朝のスキルタイムに長縄集会を行う。クラス全員で長縄跳びに挑戦し、運動の楽しさを感じられるようにする。 ・運動委員会を中心に、休み時間に縦割り活動班で運動する機会を計画し、実践する。 【各クラスや委員会の取り組みを推進】 ・毎朝、横浜St☆dy Naviの健康観察から、自分の心や体の状態を知り、生活習慣を振り返る。 ・保健委員会を中心に、毎月、健康観察チェックリストを配付し、各クラスで取り組む。 ・学校保健委員会(2月)では、学校での健康課題を共有し、課題解決に向けて、各クラスで目標を立てて取り組む。
下半期		